連載：原点

確かな学力

東総工業高等学校　宮本 真人

私は高校２年生のときに教師になりたいという夢を抱きました。友達に勉強を教える機会が多くあり，わかったと言ってもらえるのをとても嬉しく感じていました。そのとき誰かに教えることがとても楽しいことだと気づきました。そして将来は絶対に教師になると決意し，大学も教育学部に進学しました。そこで教育について多くのことを学び，生徒が夢をもつことができる教育をしたいと思うようになりました。具体的には生徒が様々な困難に打ち勝つ強い心を持ち，どんな場所でも自分らしく夢に向かって生きていけるような教育をしたいと思いました。大学時代には近隣の小学校や県立高校で２年間の学習支援をし，卒業後の２年間は講師という立場で実際の学校現場について学びました。その中で学ぶ意欲が高い生徒たちを多く見てきました。そして改めて授業の大切さを実感するとともに，生徒にとって確かな学力とは何か，そしてそれを身に付けさせるためにはどうすればいいのかを考えるようになりました。

確かな学力が重要視されている今日では，生徒が基礎的・基本的な知識・技能を正しく身につけていく必要があると考えています。しかし，生徒によっては学習習慣や学習意欲にばらつきがあることで，学力に差が出てきています。そのため，生徒の学習意欲を高めて継続力・粘り強さを培っていくことが大切だと考えています。私が学校で関わっている生徒の中には，苦手な課題があると，すぐに意欲をなくし課題に向き合えない生徒が見受けられます。また「授業が進むのが早くてついていけない」「内容が難しくてわからない」という声を漏らす生徒もいました。このことからも，授業を工夫して生徒一人一人の学習意欲を高めるとともに，何事にも粘り強く取り組むことを習慣にさせていく必要があると思います。そのために私の考える具体策を２つ述べさせて頂きます。

１つ目は，小テストやノート指導を活用して，生徒一人一人に丁寧に振り返り活動を行うことです。教師が生徒と多くの時間を共有することで，生徒は教師を信頼し，気軽に質問に来るようになります。また，単元ごとの小テストをこまめに実施し，小さな振り返り活動を重ねていくことで知識・技能を定着させていくことができます。このように丁寧な振り返り活動をとり入れることで，生徒が苦手意識を持った課題を放置せず，苦手克服の足掛かりとなっていくと思います。

２つ目は，生徒一人一人が達成感を味わえる授業を実践し，学習習慣を定着させることです。「できた」という達成感を生徒が感じることで，生徒の自己肯定感が高まり，自信につながっていきます。その結果，生徒の学習意欲が高まり，もっと色々なこと知りたいという気持ちになり，学習習慣の定着につながると考えています。そこで私は，授業において難易度の低い課題から高い課題を用意して生徒に解かせています。生徒の学習段階に応じた課題に取り組ませ，課題が終わった生徒に対してはもう少し難易度の高い課題に取り組ませています。生徒に課題のレベルを合わせ，達成感を感じさせることで学習意欲を高めています。また，生徒の頑張りを認め，大いに褒めるようにもしています。

更に授業を工夫し，グループ活動・話し合い活動や段階的な学習指導によって，学習意欲を高めていきたいと思っています。「教育は一日にしてならず」。これからも教師として粘り強く全力で生徒と向き合っていきます。